

老人ホームをどのように選ぶか？

本郷克子



7月30日、コミセンにおいて今年度第1回福祉講座が西宮市高齢福祉グループの町田竹之グループ長を講師として開かれました。「老人ホーム」といっても現在はたくさんの種類があり、何を基準にどのように選べばよいかという皆様の疑問にお答えしたものでした。

介護保険の導入以来、それまでは行政の「措置」によって入所先が決められていたのが、本人の「選択」によるものになりました。それだけに、施設の種類をよく知ることが大変重要になってきます。

資料を参考に老人ホームの種類についてのお話がありましたが、選ぶ際に大切な点を4点挙げられました。

- (1) 必ず施設を見に行くこと。職員の態度、言葉遣いもチェック。
 - (2) どのような身体の状態まで受け入れられる施設であるのか、必ず相談員と納得のいくまで話し合うこと。
 - (3) 施設の行事などへの家族の参加がどの程度要求されるかなど、その施設のあり方をよく知ること。
 - (4) 家族が訪問する頻度にかなう距離であること
- おおよそ以上のようなことです。さらに、高額な有料老人ホームは特に事前に約款を精読することを勧められました。

終の棲家となる可能性もある施設選びですから、ご本人、ご家族の慎重な選択を望みたい、そのために積極的に問い合わせ等をしてほしいということで2時間にわたったお話を結ばれました。

*資料が少し残っています。ご希望の方は事務局までお申し出ください。

社協会員会費

ご協力ありがとうございました

個人	504口	252,000 円
企業	16口	80,000 円
合計		332,000 円

寄稿

川柳でストレス解説

片山忠

「老人は 死んで下さい 国のため」
数年前、この川柳がある句会で秀句となり、ずいぶん物議を醸しました。今ここでこの句の良し悪しを言うつもりはありませんが、妙に含蓄のある句とも言えます。

川柳にはサラリーマン川柳や時事川柳、はたまた本格川柳(いわゆる人間を語り、生命を見つめ、生命と対話する文芸)があります。通常川柳と言えれば本格川柳を指すものと思つて下さい。短詩文芸としては俳句、短歌、川柳があります。入門のしやすさで川柳に人気があり、全国的に結社が約千程度もあり、どの結社も女性が半分以上占めているようです。

楽しむ方法としては新聞投句や結社に入会し(句誌や句会報を発行)、自分の句を活字にしてもらう喜び等で思わぬ生きがいを手に入れることも可能です。また川柳を通じて仲間の柳友がたくさんできます。

私は現在七十一歳で川柳歴は約八年です。実際満足できる句はほとんどありませんが、今迄に約一万五千句を作っています。新聞投句(主に朝日新聞)や四社の結社に加入し同人や会員になつています。川柳は紙と鉛筆と考える力さえあれば誰でもできますが、最後に私なりの川柳らしい考え方を述べさせていただけます。

朝青龍は品格に欠けるとして辞めさせられました。どうやら品格を問われているのは相撲協会の方らしい。こんなことは日本ではごまんとある。このようなに思うのが常識であり、川柳人でもある。それでもまれに清く正しく美しい人はいることはいはる。あまりへそ曲がりの川柳人も句がとげとげしくなつて困りますが、立派すぎる方は川柳には向いていないように思う。(強い言葉に批判精神の無い方)
悩める心ある大人たちよ！一緒に川柳

